

精密検査が可能な医療機関

※令和5年11月1日現在

医療機関名	住所	電話番号	胃	肺	大腸	子宮	乳
合田内科小児科医院	音羽町2丁目17-3	33-9208	○		○		
岩城産婦人科	緑町1丁目21-1	38-3800				○	
えざか産婦人科	新開町4-6-21	※ウェブ予約のみ				○	
王子総合病院	若草町3丁目4-8	32-8111	○	○※1	○	○	○
沖 医 院	旭町4丁目4-15	32-8870			○		
加藤胃腸科内科クリニック	緑町2丁目5-20	35-2125	○		○		
勤医協苫小牧病院	見山町1丁目8-23	72-3151	○	○	○		
桜木ファミリークリニック	桜木町2丁目25-1	71-2351	○				
すがわら内科呼吸器科	しらかば町1-18-9	76-7011		○※2			
苫 都 病 院	若草町5丁目10-21	34-2135	○	○			
たかぎ内科・循環器内科	北栄町1-22-33	53-7700		○			
たかせ内科クリニック	川治町4丁目8-25	73-6233	○		○		
同樹会苫小牧病院	新中野町3丁目9-10	36-1221	○	○	○		○
苫小牧呼吸器内科クリニック	双葉町3丁目7-3	35-0002		○※2			
苫小牧消化器外科	北栄町3丁目5-1	51-6655	○	○	○		○
苫小牧市立病院	清水町1丁目5-20	33-3131	○	○	○	○	○
苫小牧日翔病院	矢代町2丁目9-13	72-7000	○	○	○		○
苫小牧東病院	明野新町5丁目1-30	55-8811	○	○	○		
とまこまいレディースクリニック	弥生町2丁目12-5	73-5353				○	
浪岡内科消化器科クリニック	東開町4丁目20-18	51-2811	○	○	○		
錦 岡 医 院	宮前町2丁目33-4	67-0013	○				
松沢クリニック	明野新町5丁目13-21	57-7171	○				
三好内科胃腸科クリニック	豊川町3丁目6-1	75-7711	○		○		
横山内科消化器科	川治町4丁目1-2	74-0011	○		○		
レディースクリニックぬまのはた	北栄町2丁目27-7	53-0303				○	
北海道対がん協会 札幌がん検診センター	札幌市東区北26条東14-1-15	011-748-5522	○	○	○	○※3	○※3

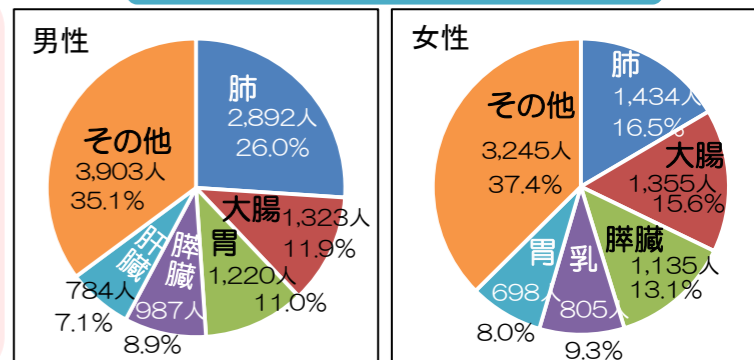
※1：精密検査の内容は診療の上で判断致します。 ※2：CTスキャンによる精密検査 ※3：札幌がん検診センターで1次検査を実施した方のみ対象

がん検診を 受ける前・受けた後

わが国では、**2人に1人ががんになり3人に1人ががんで亡くなっています。**しかし、がん検診を受けることで、がんによる死亡リスクを減らすことができます。

苫小牧市では、厚生労働省が科学的根拠に基づき効果があると評価して推奨している**5種類のがん検診**について、助成を行い受診をお勧めしています。

北海道 部位別がん死亡者数



※令和2年（2022年）北海道保健統計年報より

がん検診のメリット（◎）とデメリット（△）

- ◎ 自覚症状が出る前の早期発見・早期治療により治癒の可能性が上がります。
- ◎ がんによる死亡のリスクを抑えることができます。
- △ がん検診で必ずがんを見つけられる訳ではありません（偽陰性）。
- △ がんではなくても、結果が「陽性」や「要精密検査」となる場合があります（偽陽性）。
- △ 内視鏡による胃がん検診や子宮頸がん検診では、まれに出血を伴う場合があります。

がんを予防するために

☑ がんを防ぐための新12か条（「公益財団法人 がん研究振興財団」より）

- 第1条 たばこは吸わない
- 第2条 他人のたばこの煙をできるだけ避ける
- 第3条 お酒はほどほどに
- 第4条 バランスのとれた食生活を
- 第5条 塩辛い食品は控えめに
- 第6条 野菜や果物は不足にならないように
- 第7条 適度に運動
- 第8条 適切な体重維持
- 第9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
- 第10条 定期的ながん検診を
- 第11条 身体の異常に気がいたら、すぐに受診を
- 第12条 正しいがん情報でがんを知ることから



とまこま ちョッパ

がん検診に関するお問合せは

苫小牧市 健康こども部 健康支援課

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号（本庁舎4階）

直通電話：32-6407 / FAX：32-4322

Eメール：kenkosien@city.tomakomai.hokkaido.jp

※その他、市のホームページや広報とまこまいもご覧ください。

要精密検査となったら

- ☑ がん検診で「**要精密検査**」という結果が出た場合は、**必ず精密検査を受けましょう。**
上に記載の「メリットとデメリット」にもあるように、がんではないのに「要精密検査」という結果が出ることもあります。がんに限らず、がんになる一歩手前の状態（前がん病変）であったり、がん以外の別の病気が潜んでいる場合がありますので、**できるだけ早いうちに精密検査を受けてください。**
- ☑ 精密検査の結果は、精密検査を行った医療機関と市や関係機関で共有されます。
市の健康支援課とがん検診実施機関、精密検査の実施機関など、関係機関の間で精密検査の結果が共有されます。**市民の健康管理とがん検診の精度向上のため、ご了承ください。**
- ☑ 市の保健師から状況確認のご連絡をさせていただくことがあります。
精密検査・経過観察の受診状況や、受診後の健康状態などについて、市の保健師からお電話させていただく場合があります。

定期的に検診を！

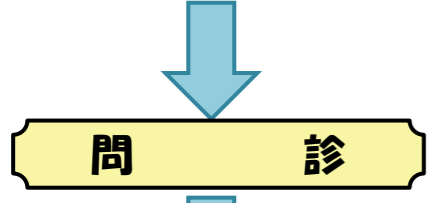
がんの早期発見のためには、がん検診を**定期的に、継続して受診**することが大切です。胃がん（胃部X線）・肺がん・大腸がんは1年に1回、胃がん（胃内視鏡）・子宮頸がん・乳がんは2年に1回（苫小牧市では年度内に偶数の年齢になる方が対象）の受診をお勧めします。また、検診の結果にかかわらず、気になる症状がある場合は次の検診時期まで待たずに、早めに医療機関を受診しましょう。

がん検診の流れ

検査の申込

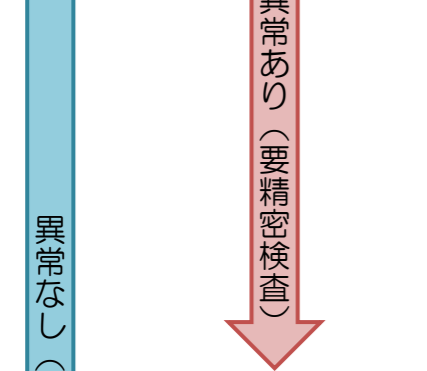


当日の受付

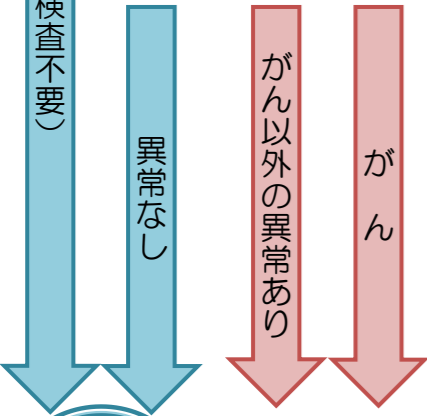


問診

がん検診



精密検査



次回もぜひ受診しましょう
治療又は経過観察

50歳代以降にかかる人が多く、がんによる死亡原因の上位になっています！

胃がん

胃部X線：40歳以上、1年に1回受診
胃内視鏡：50歳以上、2年に1回受診

がんによる死亡原因の上位、道内では男女ともに第1位になっています！

肺がん

40歳以上、1年に1回受診

かかる人が増加しており、がんによる死亡原因の上位になっています！

大腸がん

40歳以上、1年に1回受診

女性のがんの中でも比較的にかかる人が多く、30~40歳代で近年増加傾向にあります！

子宮頸がん

20歳以上、2年に1回受診

女性のがんの中でもかかる人が多く、がんによる死亡原因の上位になっています！

乳がん

40歳以上、2年に1回受診

受診したい検査機関に電話又は直接窓口で申し込み、日程調整と当日の注意事項などの説明を受けます。

！ 検査前夜の指定時刻以降は、食事ができません。予約時に説明された指示に従ってください。

！ 検査前1週間以内の便を、専用容器に2日分採取しておきましょう。

！ 月経（生理）の時期にできるだけ重ならないように予約しましょう。

保険証を提示し、「がん検診申込書」に氏名や住所などの必要事項を記入します。
※無料クーポン券・生活保護手帳・がん検診等無料証明書などをお持ちの方は、この時にあわせて提出又は提示してください。

！ 採取した便の容器を提出して終了となります。

気になる症状がある場合、ここで先生に伝えましょう。

胃部エックス線検査 又は、胃内視鏡検査

エックス線検査は、胃を膨らませる薬とバリウムを飲み、胃の粘膜の状態を撮影して観察する検査です。
※ご高齢の方は、検査中における転倒や検査終了後に極度の便秘を起こすことがあるため、当日のお身体の状態によっては、医師の判断により検査をお控えいただくことがあります。
内視鏡検査は、口又は鼻から内視鏡を挿入し、胃の内部を観察する検査です。

胃内視鏡検査 生検

精密検査では、胃内視鏡検査を行います。疑わしい部位が見つければ、組織を採取し、悪性かどうかを診断する生検を行います。
最初のがん検診で内視鏡検査を受けた場合でも、必要に応じて内視鏡での再検査や生検を行います。

胸部エックス線検査 (必要に応じて喀痰検査)

エックス線検査は、大きく息を吸い込んで止めた状態で撮影し、異常な影がないかを観察する検査です。
喀痰検査は、3日間の痰を採取し、痰に含まれる細胞や成分を測定します。

CT検査 気管支鏡検査

CT検査は、エックス線を使って、疑わしい部位の断面図を撮影して詳しく調べます。
気管支鏡検査は、口や鼻から気管支鏡を気管支に挿入し、疑わしい部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し、悪性かどうかを診断します。
喀痰検査で「要精密検査」となった場合、**痰の検査だけをもう一度受けるのではなく、必ず精密検査を受けましょう。**

便潜血検査 (2日法)

便に混じった血液を検出する検査です。
がんやポリープなどがあると、大腸内に出血することがあるため、その血液を検出します。
通常は微量なので目には見えません。

第1選択は全大腸内視鏡検査 困難な場合は 内視鏡とエックス線併用法

下剤等で大腸の中をからにし、肛門から内視鏡を挿入して、がんなどがないかを調べます。必要に応じて組織を採取し、悪性かどうかを診断します。
大腸の奥まで観察が困難な場合は、肛門からバリウムと空気を注入し、大腸全体のエックス線写真を撮影する検査も併用します。
便潜血検査で必ず陽性になる訳ではないので、**再度便潜血検査を受けるのではなく、必ず精密検査を受けましょう。**

子宮頸部の細胞診 (必要に応じて体部検査)

子宮の入口を、先端にブラシの付いた専用の器具で擦って細胞を取り、がん細胞などの異常な細胞がないかどうかを顕微鏡で調べる検査です。

コルポスコープ検査 (必要に応じHPV検査)

細胞診で異常が発見されたら、コルポスコープ（膣拡大鏡）で子宮頸部を詳しく見ます。異常な部位が見つければ、組織を一部採取して、悪性かどうかを診断します。
また、HPV（子宮頸がんの原因となるウイルス）の検査も行う場合があります。

マンモグラフィ 50歳未満：2方向 50歳以上：1方向

乳房を片方ずつプラスチックの板で挟んで撮影します。小さいしこりや石灰化などがわかります。
乳房が圧迫され痛みを感じる場合もありますが、数十秒程度で終わります。

マンモグラフィ追加撮影 超音波検査 (必要に応じ細胞診・組織診)

マンモグラフィでは、疑わしい部位を多方面から再度撮影します。
超音波検査は、疑わしい部位を超音波（エコー）で詳しく観察します。
細胞診・組織診では、疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し、悪性かどうかを診断します。